

図書館サービス向上の取り組み

だれもが親しみをもてる図書館～みんなの「知の拠点」を目指して～

令和5年2月
檀原市立図書館

1. はじめに

平成8年7月に開館した檀原市立図書館は、昨年度25周年を迎えました。その間、図書の貸出やレファレンスサービス、行事等を行うことで、市民の知的要求、情報収集のため資料・情報提供を行ってきました。

平成20年3月に「檀原市子ども読書活動推進計画」を策定し、同年4月から健康増進課・子育て支援課と協働してブックスタート事業を開始しました。また、平成23年4月からは小学校向け団体貸出の配本サービスを開始し、学校との連携を進めてまいりました。

現在、多様化する利用者ニーズ、日々進化していくICT技術、AIなど図書館を取り巻く環境はさらに多様化・複雑化すると考えられます。さらに令和元年度末に新型コロナウイルス感染症が感染拡大したことにより、社会状況が大きく変わりました。図書館も感染拡大防止対策が求められ、臨時休館などが行われました。通常開館に戻った令和3年11月以降も、感染拡大防止のためソーシャルディスタンスの確保や館内や手指の消毒、各行事の中止、参加者の制限など感染状況に応じて対策を行っています。

そのようななかで、地域の情報や文化の拠点として貢献し、親しみを持ってもらえる図書館を目指します。利用者の方や各種団体にアンケート調査を行ったうえで「図書館サービス向上の取り組み」を策定します。

2. 図書館の現状と課題

2.1. 図書館の概要

市民の状況についてですが、橿原市の人口は約12万人で「橿原市第4次総合計画」によると平成22年をピークに減少に転じています、平成27年には、65歳以上人口の比率が25.9%を占め、高齢化も進んでいます。

2.2. アンケートの結果・分析

図書館の利用状況やニーズを把握するために令和3年4月～令和4年3月の期間に図書館において利用者アンケートを実施しました。また、令和4年7～8月に関連ボランティア団体、令和4年6～9月に団体貸出を利用している小学校などの団体にもそれぞれアンケートを実施しました。

2.2.1. 図書館利用者アンケート

利用者(回答者)について

回答者数232人のうち、年齢は、60～70代が80人と最も多く、次に40～50代が68人、19歳以下と20～30代が35人と続いています。

利用目的について

「本・雑誌を借りる」、「本・雑誌・新聞を読む」、「調べ物をする」、「本の予約・リクエストをする」といった資料提供に関する項目が多く、「インターネット端末を利用する」、「おはなし会等に参加する」は少ないという結果になりました。

今後、力を入れてほしい取り組みについて

どの世代でも「図書の量の充実」が最も多く、ほかには「図書の質の充実」、「読書スペースの充実」、「予約・リクエストサービスについて」など資料提供・読書関連の要望が多いことがわかりました。このほかの「おはなし会等の児童サービス」、「講演会やイベントの充実」、「ホームページの充実」を選んだ方もいました。

2.2.2. おはなし会協力団体アンケート

回答者について

図書館でのおはなし会にご協力いただいている「檀原おはなしの会」、「檀原市図書館ボランティアの会」の会員で回答者数は21人です。

今後、図書館で力を入れて取り組んでほしいことについて

「児童書(子ども向けの本)の充実」が最も多く、「館内案内の分かりやすさ」、「資料展示」と続きます。資料の充実はボランティア団体からも求められているといえます。利用者アンケートと異なり「おはなし会等の子どもむけのイベント」、「大人向けイベント」、「季節に応じた図書館内の装飾」にも要望がありました。

2.2.3. 団体アンケート

回答者について

団体貸出サービスの対象となる小学校や文庫、放課後児童クラブなどの檀原市内の団体で回答者は小学校16団体、それ以外の団体30団体です。

※ 現在、団体貸出は閉架書庫にある団体専用の図書の中からそれぞれの団体の方が選書した本を貸出しています。当館の団体貸出用図書は30,197冊（個人貸出用図書は258,903冊、令和3年3月31日時点）です。また、希望する団体へは配本を行っています。

2.2.3.1. 小学校の結果

借りている本は文学が最も多いですが、ほかの分野の本も借りられていました。先生方が本を選ぶ際の基準として、大きく2種類ありました。一つは「教科の学習内容に沿っているもの（内容や同じ作者の作品）」、「総合学習で使えそうなもの」というような学びにつながるというものです。もう一つは「読みやすく、興味をもって楽しく読めるもの」、「児童の読書活動がひろがることをねらって選書している」というような楽しみにつながるというものです。

本の選書への意見として「図書館に選書してほしい」、「学級文庫パック（学年別おすすめ本）を作してほしい」のいずれも要望が高い結果となりました。自由記述欄では、借りたい資料として、新刊本や一般貸出用の図書が挙げられていました。

また、充実してほしい資料については文学が最も多かったものの、幅広い分野が選ばれていました。自由記述欄では、教科書と関連のある本、SDGsに関する本、「5分で読めるシリーズ」など文章が苦手な子でも手に取りやすい本、高学年向けの本が挙げられていました。

そのほかには、選書に行く時間がないという意見がありました。また、それぞれの小学校が選書した本を配本するサービスは評価されていました。

2.2.3.2. 小学校以外の結果

借りている本は絵本、文学が多いという結果でした。団体貸出用図書の蔵書構成は絵本の割合が多いですが、充実してほしい児童書も絵本、文学が多く挙げられていました。

自由記述欄では、小学校と同様にそれぞれの団体が選書した本を配本するサービスを評価する声が複数ありました。充実してほしい資料として、新刊、人気の本（「サバイバルシリーズ（朝日新聞出版）」、「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂（偕成社）」など）、大人向けの本が挙げられていました。

利用しない理由として、選書のために図書館へ行く時間が取れないという意見がありました。

3. サービス向上の取り組み

アンケート調査の結果や現状を踏まえ、市民の方々により親しみを持ってもらえるような取り組みを行います。

3.1. 市民の求める情報を収集し、地域の情報や文化の拠点を目指します

図書館は、収集した図書館資料を基盤とした基本的な図書館サービスを提供することで、市民の学びや読書活動などを支援します。

取り組み1

引き続き、利用者のニーズを考慮しつつ、最新の知見や情報が収集できるような資料を収集し、蔵書の提供を行います。リクエスト等のニーズだけでなく、潜在的なニーズにも応えられるよう、流行や世界の動向などにアンテナを張り、日々の情報収集に努めます。図書館資料収集方針に基づき、偏りなく幅広い蔵書を構成します。

また所蔵していない資料につきましても、購入またはほかの図書館から借用して、市民の求める資料を提供していきます。

取り組み2

これからの ICT 技術の発達、時代の変化に対応できるように、引き続き電子書籍等の最新の情報収集に努めます。また、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス※を令和5年3月に開始予定です。サービスを導入することで、市民が絶版等で入手困難な資料にアクセスする機会を提供します。

※ 国立国会図書館デジタル化資料送信サービスとは、国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を全国の公共図書館や大学図書館などの館内のパソコンで利用できるサービスです。

取り組み3

利用者に対して、レファレンス（調査・研究協力）を充実させるためレファレンス資料の更新に努めます。さらに、多様化する利用者のニーズに対応できるようにするため、図書資料だけでなく、インターネットも使いながらレファレンスを行っていきます。また、職員の質の向上のため、レファレンス講習会を行い、日頃からレファレンス問題に取り組み研鑽を積みます。さらに、職員間で取り扱った事例の情報交換などを行っていきます。

当館の資料で見つけられないときは、他の図書館との相互協力も行い、利用者の知りたい情報を提供していきます。

取り組み4

利用者自身が情報収集できるように、パスファインダー（調べ案内）をさらに充実させます。

小学校へのアンケートからも調べもの学習に役立つサービスへのニーズがあることが分かりました。まず、新たに子どもたちの調べものに活用できる子ども用パスファインダーを発行します。そして随時、大人用・子ども用ともに種類を増やしていきます。

3.2. みんなが親しみやすい図書館を目指します

図書館は乳幼児から高齢者、障がい者、外国人など様々な方が利用する場所です。いろいろな方が親しみをもって利用できる図書館にしていきます。現在行っている拡大読書器や郵送貸出サービスなどは今後も継続していきます。

取り組み1

読書、生涯学習、情報の収集など様々な目的で誰もが利用できるように、館内案内をより分かりやすいものにしていきます。

館内案内の分かりやすさはボランティア団体アンケートで改善を求められていました。館内案内のさらなる改善によって、利用者の利便性を高めていきます。また、利用者自身のスマートフォンなどの端末で資料のリストや情報を見ることができるようQRコードを利用したサービスを試行します。

取り組み2

ホームページ、Twitterなどで積極的な広報活動を行っていきます。また、庁内関連部署と連携してイベントの告知も積極的に行います。

現在、市民窓口課での利用案内の配布、1歳6ヶ月健診にて利用案内や絵本の紹介の冊子等の配布、市内小学校（こんな本読んでんねん!、ミニ・ビブリオバトルの案内）配布、県内図書館（ストーリーテリング講座）への配布を行っています。これに加え、イベントの案内やポスターを市内の幼稚園・保育園、子育て関連施設などに配布することで利用促進に努めます。

取り組み3

市民のニーズや地域課題に応じた資料展示を行います。

これまでも、資料展示は行ってきましたが、今後も図書館や読書を身近に感じてもらえるような展示を充実させていきます。また、庁内関連部署とも連携して展示を行っていきます。

取り組み4

利用の少ないヤングアダルト世代（中学生・高校生を中心とした世代）、20代の働く世代への利用促進に努めます。

ヤングアダルト世代に向けて本の紹介、SNS での発信、来館を促す行事などに力を入れていきます。また、イベントや資料展示、広報など中高生や大学生と協働してできないか検討していきます。

取り組み5

大人向けのイベントを計画します。過去の例では、古文書講座、野菜づくり講座などを行い好評でした。現在、子ども向けのイベントに力を入れていますが、ボランティア団体へのアンケートでも要望があったため、大人向けのイベントを企画します。

取り組み6

利用者自身でOPAC（オンライン蔵書目録検索システム）を活用できるように案内やリテラシー教育に努めます。令和6年2月に図書館システムの更新が行われる予定です。新しいOPACへ移行後も利用者が館内の機器や自身のスマートフォンなどを利用して、本の検索や予約などを行えるように、利用方法の案内の掲示や図書館利用講座などを行い、図書館をより便利に利用してもらえるようにします。

3.3. 市民や学校などとの連携をさらに密にし、開かれた図書館を目指します

今までも市民や学校などと連携を図ってまいりましたが、さらに連携を深めていくことでより多くの利用者へのサービスを行っていきます。

取り組み1

アンケート結果をもとに団体貸出のサービス向上を行います。

「本を選びに行く時間がない」、「どれを選んだらいいかわからない」という団体の声がありましたので、学年別に読んでほしい本のセットを作成します。現在準備中で、来年度からの運用を予定しています。導入後も利用状況や利用団体の意見を参考にして、よりよいものにしていきます。

また、調べ物学習のニーズに対応できるような方法を模索しています。

取り組み2

イベントや利用カード登録勧奨による読書推進活動に努めます。

現在、「こんな本読んでんねん!」や「ティーンズブックレビュー」など檀原市内の学校に募集を行って書評やPOPを募集し、読書活動推進に努めています。これらは今後も継続していきます。

また、令和4年度より小学生への利用カード登録勧奨を始めました。来年度以降も、新1年生や檀原市に転入してきた小学生を対象に利用カード登録勧奨事業を継続して、図書館の告知および利用促進に努めます。

取り組み3

学校との連携を今よりも強化していきます。

今までも学校の先生への勉強会、学校図書館へ職員の派遣、学校見学などを通して協力を行ってきましたが、さらに関係を密にしていきます。図書館に遠い地域に住んでいて、図書館に来ることが難しい子どもたちもいます。そこで、学校や学校へ読み聞かせ等を行っているボランティアの方々とも連携をして、子どもたちへの読書の機会の提供に努めます。

取り組み4

図書館関係者や図書館ボランティアと協働して、読書の「伝達者」、「普及者」となれるよう努めます。また、子どもたちにも図書館に関わってもらうことで、子どもから子どもや学校へ読書の「伝達者」、「普及者」となれるよう育成に努めます。

取り組み5

檀原市が包括的連携に関する協定を締結している大学と連携し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与する事業を行います。令和4年12月には天理大学と連携し、ビブリオバトルを開催しました。今後も連携を密にして、高等教育機関である大学のアイデアを取り入れ、市民が図書館へ来館するきっかけとなるような事業などを検討していきます。また、ヤングアダルト世代や大学生に向けた本の紹介など連携して行うことで読書活動の推進を図ります。

3.4. 図書館をより居心地のよい場所にすることを目指します

今までも新聞コーナーの移動など利便性を高める工夫をしてきましたが、これからも何度も行ってみたいと思ってもらえるような図書館となるようにしていきます。

取り組み1

大人にとって居心地のよい図書館を目指します。

令和4年5月にかねてから要望が多かった新聞コーナーの移動を行いました。また、紙芝居架そばにソファを移動させ、ゆっくり雑誌等が読めるようにしました。今後も、利用状況や利用者のご意見を参考にして改善していきます。今後、蔵書構成の変化などで空きスペースができた際は、よりよい場所になるようにレイアウトの見直しをしていきます。

取り組み2

子どもとその保護者の方にとって居心地のよい図書館を目指します。

令和4年10月に新聞コーナー跡地に「こどもと本のひろば」を設置しました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していた「絵本の時間」を「こどもと本のひろば」で行いました。今後も、利用状況や利用者のご意見、ボランティア団体へのアンケート結果を参考にして、より保護者と子どもがゆったりできる環境づくりに努めます。おはなし会もボランティア団体へのアンケート等を参考にし、より参加しやすい方法を検討していきます。例えば、オープンスペースである「こどもと本のひろば」の活用や夏休み期間のイベント開催を検討していきます。